

スクリーニングテスト

1. 反復唾液飲みテスト(repetitive saliva swallowing test:RSST)

患者に空嚥下を反復してもらい、嚥下反射の随意的な惹起能力を評価するスクリーニング法。口腔乾燥がある場合には湿潤させてから空嚥下をしてもらう。

評価	30秒間に3回以上であれば良好
	30秒間に2回以下であれば不良

2. 改訂水飲みテスト(modified water swallow test:MWST)

3mlの冷水を口腔内に入れて嚥下してもらい、嚥下反射誘発の有無、むせ、呼吸の変化を評価する。3ml冷水の嚥下が可能な場合には、更に2回の嚥下運動を追加して評価する。

評価	判定不能:口から出す、無反応
	1a:嚥下なし、むせなし、湿性嘔声あるいは呼吸変化あり
	1b:嚥下なし、むせあり
	2 : 嚥下あり、むせなし、呼吸変化あり
	3a:嚥下あり、むせなし、湿性嘔声あり
	3b:嚥下あり、むせあり
	4 : 嚥下あり、むせなし、湿性嘔声・呼吸変化なし
	5 : 4に加えて追加嚥下運動が30秒以内に2回以上可能

3. フードテスト

ティースプーン1杯(3~4g)のプリンなどを嚥下させてその状態を観察する。口腔内に残留がある場合は空嚥下の追加を指示し、30秒間観察する。

評価	判定不能:口から出す、無反応
	1a : 嚥下なし、むせなし、湿性嘔声あるいは呼吸変化あり
	1b : 嚥下なし、むせあり
	2 : 嚥下あり、むせなし、呼吸変化あり
	3a : 嚥下あり、むせなし、湿性嘔声あり
	3b : 嚥下あり、むせあり
	3c : 嚥下あり、むせあり、湿性嘔声なし、口腔内残留あり
	4 : 嚥下あり、むせなし、湿性嘔声なし、口腔内残留あり 追加嚥下で残留は消失
	5 : 嚥下あり、むせなし、湿性嘔声・呼吸変化